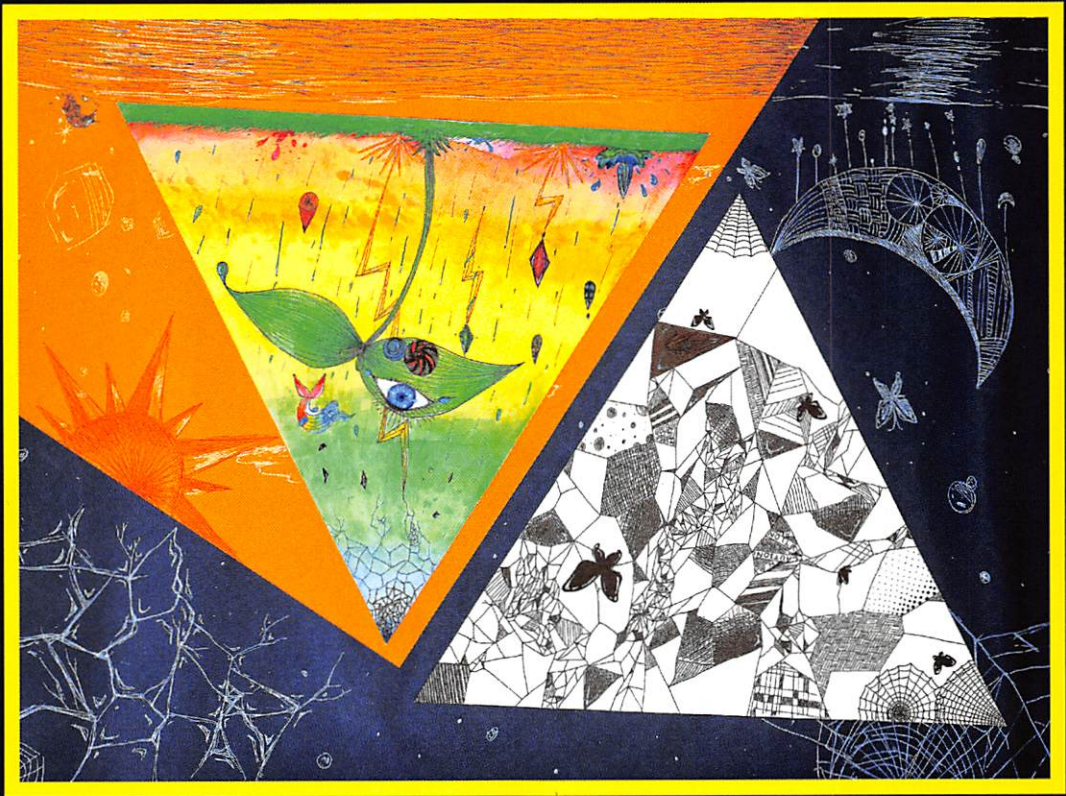


秋田県造形教育研究会  
秋田県教育研究会造形部会



2016.3

NO.52 (平成27年度)

造形 秋 田





## 秋田から発信する「造形のチカラ」

秋田県造形教育研究会

会長 佐々木 彰 子

平成27年度「造形秋田」の発刊にあたり、編集及び執筆に携われた皆様のご努力とご協力に心から感謝申し上げます。また、今年度の秋田県造形教育研究会の活動及び各地区造形教育研究会における活動に際しまして、皆様の児童生徒・学校・地域に寄せる熱い情熱に心から拍手を送ります。誠にありがとうございました。

さて、今年度は、平成30年度に行われる全国造形教育研究大会秋田大会に向かう「アプローチ」の年でした。

8月7日秋田公立美術大学を会場に開催された、第46回秋田県造形教育セミナーは、秋田県の造形教育の方向性や秋田の美術風土について、創造的な議論を沸騰させるよい機会となりました。このたびのセミナー「『鑑賞』って楽しい！」は革新的な企画で、授業研究はもちろん、ふるさと秋田の風土や実相を課題に据えた美術の挑戦にも視野を広げることができました。そしてなにより、上野行一先生はじめ指導力豊かな各講師の方々を一堂にお招きして教員同士が研鑽を積み、「子どもたちの美術文化への憧れに応えられる教師であり続けたい」という教師の願いが、秋田の地でも実現できることを証明できたことは大きな成果でした。

また、昨年度から立体部門を復活させ、秋田県立美術館を会場に開催された平成27年度第56回秋田県児童生徒美術展は、児童生徒に美術文化への憧れをもち、学ぶことやつくりだすことの楽しさと喜び、自信や誇りを確実に芽生えさせています。秋田市の皆様の多大なるご協力を得て行われている活動であり、心から感謝申し上げます。

さて、学習指導要領改訂では、高大接続改革を受けてこれまでの系統的に教育内容「知の体系」から、育成すべき資質・能力を確実に育む「能力の体系」へと舵をとり、アクティブ・ラーニングの視点に立った深い学び、対話的な学び、主体的な学びの実現が求められています。今後は、「育成すべき資質・能力」の論点整理を経て、本県の図画工作・美術の指導研究で議論されていくことでしょうか。対象や基本的な考え方を学ぶことを超えて、社会・自然の在り方や人間関係、生き方を自分で考えよりよいものを求めていく人間を育てるという流れは、本県が進めている研究と本流を同じくするものです。秋田から発信する「造形のチカラ」のなお一層の充実を期待したいところです。

これからは、教育実践により一層の創意工夫と確かな指導が求められます。子どもに「生きる力」を身に付けさせるという責任をオール秋田の「チーム」として共有し、秋田県造形教育研究会の一人一人が知恵と汗を惜しまず、協力し合って歩みたいものです。

終わりに、次年度、平成28年11月4日には、第41回秋田県造形教育研究大会 南ブロック（横手）大会が、「生きる輝き つくりだす喜び」～思いを広げ、深めるための造形活動における言語活動のあり方～の研究主題で横手市にて開催される予定です。実り多い研究会になることをご祈念申し上げ、巻頭言とさせていただきます。

# 造形秋田

No.52

## 目次

### 巻頭言

秋田から発信する「造形のチカラ」

各郡市造形教育研究会の活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第56回 秋田県児童生徒美術展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第56回 秋田県児童生徒美術展 話題作一覧・・・・・・・・・・ 12

### 研究の記録

第46回秋田県造形教育セミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

講演 演題 「風神雷神はなぜ笑っているのか  
～これからの学校教育と美術鑑賞の授業～」・・・・・・・・ 20

①コース「日本の伝統文化と秋田の工芸」・・・・・・・・・・ 24

②コース「実践発表」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

③コース「児童・生徒の鑑賞力を引き出すアートカードに挑戦しよう！」・・・・ 26

第60回東北造形教育研究大会福島大会に参加して・・・・・・・・ 27

第60回東北造形教育研究大会福島大会に参加して・・・・・・・・ 28

平成27年度 秋田県造形教育研究会役員・・・・・・・・・・・・ 29

表紙絵 世界の崩壊そして再生  
中川桃子(勝平中学校)  
裏表紙 Japanese Style!  
三浦佳恋(西目中学校)

---

## 各郡市造形教育研究会の活動報告

---

組 織 会 長 木 村 伸 (尾去沢中学校校長)  
 副 会 長 金 澤 裕 子 (小坂中学校教頭)  
 事 務 局 田 中 繁 子 (尾去沢小学校)  
 会 計 田 中 繁 子 (尾去沢小学校)

## 主な事業

平成27年度総会 (花輪第一中学校)

4/24

夏季研修会 (十和田市現代美術館等見学)

8名参加

7/30

県児童生徒美術展鹿角審査会

12/7

(文化の杜交流館コモッセ)

・鹿角小・中・高合同美術展

1/16～1/20

・作品を見合う会

1/20

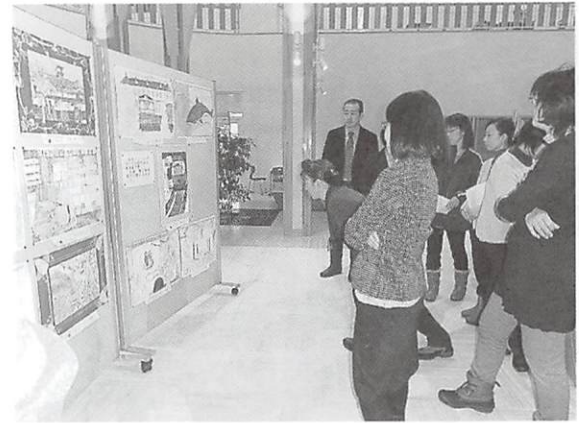
(文化の杜交流館コモッセこもれび広場)

## 研究会の記録

- ・ 7月30日に青森県十和田市現代美術館と岩手県二戸市福田繁雄デザイン館 (二戸市シビックセンター内) を見学し、夏季研修会を行った。現代美術館では、立体アートの表現のおもしろさに触れることができた。
- ・ 10月3日の秋田県学力向上フォーラムでは、花輪第一中学校を会場に、本研究会会員関清志先生が、「鹿角茜染め」の授業実践を行った。地域教材を生かした授業の在り方を県内外の先生方に提案することができた。
- ・ 県美術展に向けて、花輪市民センターにて鹿角審査会を行った。今年度は、小中合わせて193点の作品が出品され、そのうち、62点が優良賞となった。各学年とも多様な表現方法で、工夫された作品が多かった。
- ・ 今年度の鹿角小・中・高合同美術展は、昨年4月に完成した「鹿角市文化の杜交流館コモッセ」のこもれび広場で行った。この施設は、文化ホールや図書館も併設されており、その施設を利用する人も含め、約300名の方が鑑賞して下さった。
- ・ 1月20日の「作品を見合う会」では、指導方法や表現方法の疑問を出し合い、お互いに自分の実践を紹介し合いながら、指導技術の向上を図った。



【合同美術展展示の様子】



【作品を見合う会】の様子

**組織** 会長 永井 孝久 (山瀬小学校)  
 副会長 石岡 ひな子 (城西小学校) 嘉藤 貴子 (合川中学校)  
 本間 いま子 (鷹巣南小学校)  
 事務局 佐々木 亜希子 (大館第一中学校) コリガン 麻衣 (北陽中学校)  
 研究部 工藤 明美 (鷹巣中学校) 山崎 真紀子 (鷹巣南中学校)  
 会計 佐々木 由美 (比内中学校)

## 主な事業

大北造形研究会総会 (4/16)  
会場：田代公民館

大館北秋田造形研究会実技研修会  
(7/28)  
会場：北秋田市立鷹巣中学校

秋田県児童生徒美術展地区審査会  
素描集「北の造形」第48集審査会 及び研修会  
(11/20)  
会場：田代公民館

第38回 絵を見て語る会  
素描集「北の造形」第48集発刊・配布  
(1/15)  
会場：田代公民館

## 研究会の記録

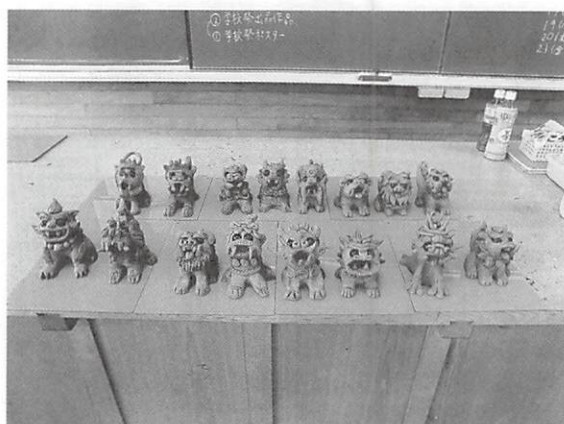
### ○大館北秋田造形研究会実技研修会について

実技研修会は隔年開催で、今年は大阪にある日本教材製作所（粘土専門の教材会社）の方を講師に招き、鷹巣中学校を会場に行った。

内容は様々な粘土の特性を生かした作品作りの実習であった。一口に粘土といっても、紙粘土、油粘土、石粉粘土、木粉粘土、土粘土など種類は豊富にある。最近では透明感があってより細かな形が作れる樹脂粘土も一般的になってきた。紙粘土一つとっても、芯材にくっつけて使用するのにむいている、手でこねて成形するのに向いている、粘土同士のつきがよい、乾いたときの弾力がある、練り込んだり着色したりした場合の発色がよいなど、数種類の紙粘土の違いを実際に触りながら確かめることができた。題材を設定し材料を選択する際には、児童生徒の表したい思いや願いを形にする上で最も適する材料を選びたい、と改めて感じさせられた。授業作りにすぐに役立つ大変有意義な研修であった。



〔熱心に制作中〕



〔シーサー大集合〕

- |       |                  |                  |           |               |
|-------|------------------|------------------|-----------|---------------|
| 組 織   | 会 長              | 佐々木 彰子 (二ツ井小学校)  | 長 浜       | 笑 子 (能代第二中学校) |
|       | 副 会 長            | 明 石 まき子 (浅内小学校)  | 芹 田       | 亨 (常盤中学校)     |
|       | 会計監査             | 大 高 洋子 (塙川小学校)   | 畠 山       | 和 子 (向能代小学校)  |
|       | 事務局              | 渡 部 悦子 (東雲中学校)   | 小 森       | 哉 子 (常盤小学校)   |
|       | 理 事              | 越後谷 知子 (崇徳小学校)   | 田 中       | 絵里奈 (山本中学校)   |
|       |                  | 大 山 祐子 (金岡小学校)   |           |               |
|       |                  | 中 村 紀 幸 (下岩川小学校) |           |               |
|       |                  | 岩 谷 修 一 (八竜中学校)  |           |               |
| 研 修 班 | 越 前 芳 広 (二ツ井小学校) | 芹 田              | 亨 (常盤中学校) |               |
|       | 田 森 舞 (能代南中学校)   |                  |           |               |

主な事業

○夏季研修会 「小・中・高連携による造形活動」  
 ストーリーからイメージを膨らませて、  
 段ボールなどを使ったアンサー作品づくり  
 「スイミーは どこで泳いでいるの? (2015夏)」  
 「はらべこ あおむしくんは なにを食べたの? (2015夏)」  
 7/28

○授業研究会 三種町立湖北小学校  
 「瞬間コレクション」 (小6) 10/6  
 ○秋田県児童生徒美術展審査会  
 12/9  
 ○能代地区高校美術作品展への出品協力  
 「小・中・高連携による造形活動」 2/20~2/21

研究会の記録

○夏季研修会 「小・中・高連携による造形活動」

高校教員によるワークショップに、小中教員が参加する研修会は4年目となる。テーマは「ストーリーからイメージを膨らませるアンサー作品づくり—スイミーは どこで泳いでいるの?—」である。高校生が制作した平面作品から会員各自がイメージを膨らませて、作品の中で泳ぐ「魚」を段ボール等で制作し、そして、相互の作品の空間構成を仕掛け、造形の妙を楽しんだ。

次の段階では、各校で児童生徒に同様のワークショップを展開して造形した作品を持ち寄り、2月に行われる能代地区高校美術作品展では、高校生が小・中・高の作品群を展示構成して、「小・中・高連携による造形活動」のアンサー作品が展示される予定である。



【会員のアンサー作品「魚」】

○授業研究会

三種町立湖北小学校にご協力を頂き、畠山教諭の指導による題材名「瞬間コレクション」(6年生)の授業研究会を提供していただいた。デジタルカメラで「びっくり」「不思議」「すてき」などのキーワードをもとに、何かに見立てて発見した瞬間を写真に撮影し、グループで鑑賞し合った。その発見や驚きについて自分の思いを話したり、友達と話し合ったりしながら、表現の意図や新しい見方や工夫などを捉えていた。



【授業風景】

組織 会長 鎌田 悟 (船越小学校)  
副会長 田村 稔 (男鹿南中学校)  
事務局 上田 環 (船川南小学校)

## 主な事業

造形部総会 (4/15)

男鹿市校長会教科部会研修会 (10/14)

男鹿市児童生徒美術展審査会・展示・研修会 (11/26)

男鹿市児童生徒美術展 (11/27～12/9)

## 研究会の記録

(1) 研究主題 よさや美しさを感じ取り 想像力を働かせ表現する子どもの育成

### (2) 活動の概要

#### ① 教科部会「STYRENE PRINT～水彩絵の具+αで刷るスチレン版画～」

今年度は図工・美術を指導する際、指導者が苦手とする版画を題材に取り上げ、実技研修を行った。講師は本部会の副会長田村稔氏である。小学校・中学校でも同様に製作を楽しめ出来上がりも満足のいけるもの、そして身近な物を利用して作品づくりができるスチレン版画に挑戦した。

実技を通して、どの過程で児童生徒が試行錯誤しながら発想を広げていくのか、一つ一つ確認しながら作業できた。参加した部員も自分でモチーフをどのように版にしていけるのかアングルを決めるなどして実技工程を楽しむことができた。「男鹿」という地域をモチーフにしていたことも、ふるさと教育につながったと思う。



#### ② 作品展の審査と鑑賞指導

今回の作品展も、幅広い造形要素が見られ、ダイナミックな発想から生み出されたものばかりであった。昨年同様、作品に児童生徒のコメントカードを添付してもらった。これは男鹿市独自の審査方法である。コメントカードには、作品へ込めた作者の思い等を記入している。出品した作品をもとに鑑賞指導の研修を行ったが作品とコメントカードを並列することで、より一層作品を理解することができた。また、審査を交えながら作品を観るときのポイントを研修することができた。

今回は、参考作品も紹介され、これからの授業に役立つ教材も示された。



組織 会長	加藤 順子 (東湖小学校)		
副会長	佐藤 恵 (八郎潟中学校)		
運営委員	伊藤 晃 (八郎潟小学校)	菅原 恵 (五城目小学校)	
	小林 博子 (五城目第一中学校)	近江 和佳子 (天王中学校)	
事務局	都留賀 津人 (天王南中学校)		

主な事業

・総会	4/14 (火)	・運営委員会	6/2 (火)
・夏休み造形教室	8/4 (火)	・教科等研修会	9/2 (水)
・子どもの絵を語る会	12/10 (木)		

研究会の記録

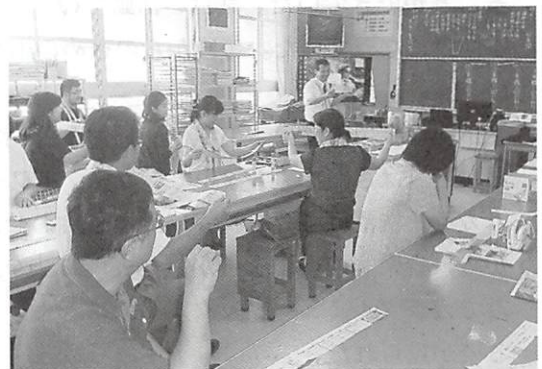
- (1) 研究主題 よろこび・わくわく 新たな発見 ～キラリ感じてつくる子ども～  
 (2) 活動の概要

① 夏休み造形教室

- ◆会場 五城目町野鳥の森
- ◆内容 木の実、木の枝などを生かした立体作品の制作
- ◆対象 潟上・南秋地区の小学生
- ◆所感 自然豊かな環境のもと、学校ではなかなか得られない子どもの興味を引く豊富な自然素材と充実した工具、造形部員のアドバイスがあり、子どもたちが材料から豊かに発想し、作品作りを楽しむことができた。

② 教科等研究会

- ◆会場 天王南中学校 美術室
- ◆講師 秋田県造形教育研究会  
元会長 羽深 進 先生
- ◆内容 講義・演習
- ◆所感 羽深先生ご自身の来歴と重ねながら、教師の在り方について講義していただき、専門職としての実力向上を図るために研鑽を重ねることの大切さを学ぶことができた。後半は、(特に小学校で)すぐに授業に生かせそうな題材を紹介していただいた。演習を通して児童生徒と同じ気持ちになり、子どもたちの「伸びようとする思い」に応えていきたいと感じた。



③ 子どもの絵を語る会 (秋田県児童生徒美術展地区審査会)

- ◆会場 潟上市昭和公民館
- ◆内容 県児童生徒美術展の作品審査と、子どもの絵の見方研修
- ◆所感 会員相互の対話により、これまでの経験を生かしたり、会員自らの目を信じたりして審査を行うことができた。また、絵および立体作品の捉え方や指導技術の情報交換など、審査の枠を越えた話合いも自然になされた。

- 組織 会長 加賀谷 政 広 (勝 平 中 学 校)  
 副会長 榎 実和子 (外 旭 川 小 学 校) 小 松 文 子 (桜 小 学 校)  
 事務局 鎌 田 政 美 (土 崎 中 学 校) 菊 地 有 希 子 (大 住 小 学 校)  
 三 浦 直 樹 (秋 田 北 中 学 校) 工 藤 圭 文 (港 北 小 学 校)  
 大 野 由 加 里 (旭 南 小 学 校)  
 幹 事 小 林 さ お り (秋 田 南 中 学 校) 齋 藤 未 樹 (御 野 場 中 学 校)  
 会 計 伊 藤 知 佐 子 (泉 中 学 校)

## 主な事業

美術鑑賞研修会 掌中の珠  
 -高円宮家コレクションの根付-  
 (秋田市千秋美術館/5月20日)

大森山動物園  
 第38回 親と子のふれあい写生大会  
 (大森山動物園と共催/7月25・26日)

秋田県児童生徒美術展 秋田市審査  
 (土崎中学校/11月28日)

クロッキー巡回展 : 市内各小学校  
 (審査: 港北小学校/12月28日)

## 研究会の記録

○全市一斉授業研究会 (中学校) 10/21 (水) 桜中学校 芳賀 典子 先生

題材名 「日本絵画の美に迫る」

日本絵画のよさを生徒が実感できることをねらった鑑賞の題材であった。尾形光琳の紅白梅図屏風の鑑賞活動をした後、生徒一人一人が金箔貼り体験をした。金箔貼り体験を通じて日本美術のすごさを感じ取ることができていた。話し合い活動でのキーワードが正面に数多く掲示してあり、生徒たちが思考する際の手助けになっていた。普段からのきめの細かい指導が感じ取られる環境作りがなされていた。

○全市一斉授業研究会 (小学校) 11/11 (水) 豊岩小学校 渡部 英明 先生

題材名「はさんで つないで カラフルワールド」

カラー洗濯ばさみを様々につなぎ合わせ、縦横に伸びていく形や色のおもしろさや美しさを感じ取りながら、音楽室の環境を生かした表現方法を工夫する高学年の造形遊びの題材であった。音楽室を洗濯ばさみでカラフルミュージックルームにしようという提案に、児童たちは楽器との組み合わせを思考し活動する姿が見られた。

○水曜研修会 2/3 (水) 飯島中学校美術室

実践発表者

寺内小学校 齋藤 知佳子先生 「わくわく楽しい図工の素」

飯島中学校 築地 亜紀先生 「包む～文様に思いを込めて～」

小・中一名ずつの貴重な実践を聞く機会となる研修となった。作品や学習のヒントが掲示されたすばらしい環境の美術室において、児童生徒作品を手に取りながら活発な質疑応答・意見交換がなされた。



10/21全市一斉授業研授業風景

組織	会長	石井真理子	(象瀧中学校)
	副会長	赤川祐輝	(矢島中学校)
		安保純	(仁賀保中学校)
	事務局	木内衛	(本荘北中学校)
	事務局	山下奈知	(本荘東中学校)
	研究部長	関口琢也	(象瀧小学校)
	会計	須田秀二	(由利中学校)

## 主な事業

平成25年度造形部総会	4/15
-------------	------

造形部研修会	12/11
--------	-------

本荘由利児童生徒美術展	12/5～
-------------	-------

その他 県造形セミナーへの参加	8/7
本荘由利小・中・高等学校の図画工作・美術の研究授業への参加 (各校研究授業等)	

## 研究会の記録

### 1. はじめに

各校の教科研究や地区の研究会等で造形部員それぞれが研鑽を積み、指導法の研究や児童生徒の作品がどうあるべきかを考察すること、また、教科別研究集会や研修・研究部会・児童生徒美術展・県児童生徒美術展平面作品審査への参加など、様々な形で積極的に研修に参加することを、当会の具体的な目標とした。

特に、児童生徒美術展は各校の造形活動の取り組みを紹介し合う機会であり、より幅の広い意味での情報交換の場となっている。また、奨励作品の審査・選出を通して作品の見方や造形活動の在り方について協議する活動の意義は大きい。

### 2. 各事業の成果

#### (1) 研究会への参加 (8月7日)

第46回秋田県造形教育セミナー～「鑑賞」って楽しい!～に参加するという形で今年度の市造形部夏の研修会とした。今後の図画工作・美術の授業に生かせる講演とコース別研修であった。コース別研修には、上野行一先生による対話による鑑賞の研修、山形市立山形第七中学校の池野吉洋先生と大仙市立大曲小学校の三浦典子先生による実践発表、美術出版サービスセンターの森泉彩子先生によるアートカードの研修を行った。講演では「風神雷神はなぜ笑っているのか～これからの学校教育と美術鑑賞授業～」という演題で講演をしていただいた。これまでの授業を見直し、実践に生かすことができる貴重な時間となった。

#### (2) 本荘由利児童生徒美術展 (12月5日～7日)

由利本荘市文化交流館「カダーレ」で開催した。テーマである「描くこと・つくることが大好き」を反映した個性豊かな作品が多く見られた。昨年同様、立体作品の充実には目を見張るものがあった。

出品作品の中から造形部がめざす作品を「奨励賞」として選出した。各小中学校の教職員及び、造形部員の熱心な取り組みと各校の協力で、運営面・作品の内容共により充実した展覧会となった。

カダーレを会場として実施するのは4回目ということで、3日間で1960名の来場があり、多くの方々に見ていただけた。

来年度は開催期間や広報活動、今年度実施した会場構成や作品管理の常駐を軌道にのせ、さらに地域の方々へ親しんでいただける展覧会にしていきたい。

#### (3) 造形部研修会 (12月11日)

由利本荘市市民交流学習センター多目的ホールを会場に、県児童生徒美術展に出品する本荘由利の作品を選出する公開審査会として行った。昨年度から立体作品の審査も行うこととなったが、各校の協力によりスムーズに審査を進めることができた。

造形部員にとっては、児童・生徒の作品の傾向・良さ・課題について話し合う有意義な研修の場となり、今後の授業に役立つ多くの情報を得ることができたはずである。

#### (4) 本荘由利小・中・高等学校の図工・美術の研究授業への参加

造形部研究部長より本荘由利の小・中学校における年間の図工・美術の研究授業(要請訪問・教科等指定訪問)の一覧表が造形部員に配布され、一覧表を見て造形部員が希望する授業を参観するようにしている。高等学校会場の参加機会も含め、分科会にも積極的に参加するように勧めている。

組織 会長 高橋 克明 (太田中学校)  
 副会長 小林 高太郎 (松木内小学校)  
 監事 菅原 靖 (神岡小学校)  
 事務局 渡邊 真理子 (大曲中学校)  
 田中 武晴 (太田中学校)  
 菅原 久実 (協和中学校)

門脇 伸子 (仙北中学校)  
 三浦 典子 (大曲小学校)  
 長澤 真由美 (角館中学校)  
 高橋 涼 (仙北中学校)  
 ◎田中 真二郎 (西仙北中学校)

## 主な事業

### ○夏季研修会

#### 「幼保・小・中合同研修会」

期日：7月31日(金) 会場：大曲中学校

内容：描く・つくる・あそぶそれぞれのコースに分かれて材料や技法、授業づくりについて学ぶ

今年度は、幼稚園、保育園、小学校、中学校の先生（会員以外も）を対象にした技術系のワークショップを開催した。描くコースは、主に絵の具の使い方、つくるコースは、様々な粘土を用いた表現について、あそぶコースでは、造形遊びの素材や指導法についてそれぞれ学んだ。幼保の先生方の参加が多くあり、ベテランの会員が豊富な材料や資料を基に表現方法や指導の在り方を参加者とともに考えながら進めていった。今後も幼児期の造形教育との連続性を意識して継続していきたいと考えている。



### ○第47回大曲仙北児童生徒美術展

期日：11月21日～23日

会場：大曲市大曲交流センター講堂

今年度も多くの感性豊かな作品が集まった。今年度の出品総数は約860点であった。年々出品数は減るものの、各校の作品はバラエティーに富み、子どもの思いを豊かに表現していることがうかがわれた。特に、4年生の「木」を描く題材では、子ども一人一人に主題があり、それを表すための工夫が随所に見られた。図工・美術を通して育みたい資質や能力を明確にした授業が行われている成果であると感じている。美術展の準備に関わる会員もここ最近が増えてきていることに感謝したい。



## 夏季研修会の記録とこれからの取組

今年度は、市内の幼稚園・保育園の先生方も交えて研修を行うことができた。開催後のアンケートを見ると、幼保の先生方の満足度が非常に高かった。これは幼保の先生方の造形に関する研修の機会がほとんどないということからきていると考えられる。大曲仙北地区では、これからも幼児期の造形教育との連続性を意識し、子どもの発達と成長に寄り添った指導を心がけていきたい。

また、小学校の先生に対する造形指導の支援策として「図工キャラバン」なるものを組織し、ベテランの会員を講師に、日頃の図工指導で悩んだり困ったりしている先生方がいる学校へ出向き、研修を行うシステムを構築しようと考えている。若手の先生がベテランの先生に指導法や考え方を学ぶ機会は少ない。今後、大曲仙北造形研として研修の機会を設け、お互いにレベルアップできる環境の整備と図工・美術の大切さを広くアピールする活動にも取り組んでいきたいと考えている。

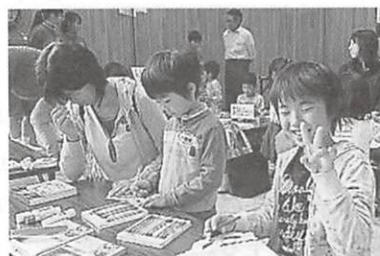
組織 会長 奥 秀 輝 校長 (朝倉小学校)  
副会長 黒澤 正 尚 校長 (浅舞小学校) 佐藤 稔 教諭 (横手南中学校)  
研究部長 美濃 俊 幸 教諭 (十文字中学校)  
事務局 高橋 輝 樹 教諭 (横手北中学校)

## 主な事業

- ・つくってあそぼう…境町公民館 (9月18日)
- ・平成28年度秋田県造形教育研究大会 役員会 (5月, 7月, 8月, 9月, 10月)
- ・第41回横手市児童生徒美術展《横手駅前交流センター》Y<sup>2</sup>ぷらざ (11月27日～30日)
- ・第56回秋田県児童生徒美術展 横手地区審査会 (11月30日)

## 研究会等の記録

・「つくってあそぼう」は横手市教育委員会、横手市子ども会育成連合会が主催の活動で、横手市造形教育研究会も『図工あそび』ブースを提供しました。内容は、紙粘土でマグネット作りや、プラ版シートを使ってキーホルダー作り、紙を切り抜いてつくるお面の各コーナーで子供達と造形を楽しみました。親子で工夫して楽しみながらつくる姿が印象的でした。



・第41回横手市児童生徒美術展は11月27日(金)～30日(月)の4日間、横手駅前にあるY<sup>2</sup>ぷらざで実施されました。小中学校27校の力作約600点が会場を盛り上げました。題材研究の場としても、有意義な空間となりました。会場をY<sup>2</sup>



ぷらざとしてから4年目になりますが、横手駅前ということもあり、多くの方々に作品を見ていただきました。展示された作品は、例年通りの力作ぞろいでした。最終日には審査会があり、県大会への充実した審査が行われました。

・平成28年度秋田県造形教育研究大会に向けた役員会ならびに県南3郡市合同役員会を行いました。横手市造形研役員会は4度行い、研究テーマや講師依頼、主会場の選別や当日の動きなど、大会に向けた気付きをもちより、前大会を参考に準備を進めました。今後、県事務局の先生方には御難儀をおかけすることが多くなることと思いますが、平成30年度の全国造形大会のよき足場になればと考えています。様々な部分で、ご指導ご提案をどうぞ宜しくお願いいたします。

- 組織 会長 芦原清巳 (三関小学校)  
 副会長 佐藤義昭 (三梨小学校) 加藤久夫 (湯沢南中学校)  
 事務局 三浦秀巳 (駒形小学校)  
 会計 鈴木陽 (稲庭小学校)

## 主な事業

・第1回役員会：今年度の事業，ならびに研修内容についての相談 4/13	・郡市教育研究会総会：研究テーマ，活動計画役員の決定 4/16
・郡市一斉授業研究会 9/10	・県美術展審査，地方展開催，撤去 12/3～12/7
・会誌「このゆびとまれV o l . 15」 2月上旬製本・発送	・第4回役員会：事業の反省，平成28年度の事業内容について 2月中旬

## 研究会の記録

### ◎秋田県児童生徒美術展湯沢雄勝地方展より

総出品数347点（小学校226点・中学校121点）のうち，103点を本郡市の優良作品として県に推薦した。以下に今年度の審査講評からの特記事項を抜粋する。

- (低学年) クレヨンや絵の具の塗り重ねなどにより，絵の力強さを印象づけている作品が多い。
- (中学年) 地となる紙の色や素材を工夫し，背景に変化をつけている。
- (高学年) 表現方法が多様化しており，これまで習得したテクニックを使って作品を仕上げている。
- (中学校) テーマや主題設定の場面で自分の思いを大切にしている，多様な表現の作品になっている。



### ◎郡市一斉授業研究会

授業者：佐藤秀実先生〈稲川中学校・2年〉

題材名：一瞬の動きをとらえて ～感じた気持ちを姿で伝えよう～

指導者：熊谷留美子 指導主事〈仙北出張所〉

実践発表者：吉田多美子先生〈三梨小学校〉「ひかりのくにの なかまたち」

実践発表者：鈴木陽先生〈稲庭小学校〉「初めて出会う表現技法から，イメージをふくらませて」

本時の学習のポイントは，作品制作に向けて主題を持つという点である。小グループで自分の主題を伝え合い，「アドバイスできた・いいアドバイスをもらえた」という思いを味わわせたいという授業者の意図がうかがえた。グループ内の雰囲気もよく，笑顔で受け答えする様子も見られた。相手を共感的に受け入れようとする姿勢は，作品作りにも生かされるに違いない。

また授業研究と平行し，今年度も実践発表を行った。小・中連携と言うには少しもの足りないが，今後こうした取り組みを継続し小・中それぞれの様子を知ること，教科指導・生徒理解に生かしていきたい。

# 第56回 秋田県児童生徒美術展

期 間：平成28年1月7日（木）～10日（日）

会 場：秋田県立美術館県民ギャラリー

4日間とも開館時間帯は、10：00～17：00

- 主 催 秋田県教育研究会造形部会  
秋田県造形教育研究会
- 後 援 秋田県教育委員会 秋田市教育委員会  
秋田魁新報社 NHK秋田放送局  
A B S 秋田放送 A K T 秋田テレビ  
A A B 秋田朝日放送

応募数	平面の部		
	出品総数	3,884点	優良作品 1,193点
	推奨作品	115点	話題作 38点
入場者数	3,478人		

# 話題作一覧

（魁掲載）作品 ～平面の部・立体の部～

学年	題名	学校名	氏名	地区
幼保	わたしのすてきなぼうし	聖園幼稚園・ベビー園	寺田朱里	秋田
	カマキリの世界へようこそ！	上宮第一幼稚園	吉川花梨	横手平鹿
小1	カマキリとなかよし	崇徳小学校	あいざわたくま	能代山本
	月夜の音楽会	花岡小学校	伊藤ちゃら	大館北秋
	カラフルわにさん川をわたる	新山小学校	ゆだある	本荘由利
	キリンのくににいきたいな	桜小学校	鈴木結葵	秋田
小2	犬といっしょ	小坂小学校	永田琉星	鹿角
	ミニトマトランドであそぼう	下岩川小学校	近藤のあ	能代山本
	わたしもくじゃくになって	船川南小学校	近藤花保	男鹿
	アシカとなかよし	御所野小学校	くぼ田あとう	秋田
小3	夜の戦い	秋大附属小学校	泉幸太郎	秋田
	本を読んでいる友だち	湊城西小学校	鈴木優雅	能代山本
	とびばこロケットがうちゅうへとんで行った!!	有浦小学校	簾内健之介	大館北秋
	ゆかいなサンタさん	東由利小学校	今野将吾	本荘由利
小4	秋のスイーツ祭り	四ツ小屋小学校	泉沙希	秋田
	虫のパーティー	水沢小学校	田村胤	能代山本
	カニが水に入ってあわふいているよ	前田小学校	岸野華恋	大館北秋
	雲にかぶ未来時計	角館小学校	松本萌花	大曲仙北
小5	秋晴れの下のヒマワリ	駒形小学校	阿部想奈	湯沢雄勝
	美しい木	尾崎小学校	田中絢菜	本荘由利
	中滝の紅葉	大湯小学校	阿部真子	鹿角
	葉っぱになった自分～秋の風景～	大阿仁小学校	田口蓮	大館北秋
小6	星のデニム	湯沢東小学校	森田来愛	湯沢雄勝
	緑に囲まれたハリストス正教会	西館小学校	阿部瑠綺菜	大館北秋
	夏の思い出の校舎	阿仁合小学校	松橋結人	大館北秋
	思い入れのある玄関	桜小学校	石川歩夢	秋田
中1	滝	秋田東中学校	篠田真名	秋田
	夜の暴走	大館国際情報学院	渡部紗千	大館北秋
	感謝	羽城中学校	鈴木瑞歩	潟上南秋
	流れ～いのちのつながり～	美郷中学校	佐々木美羽	大曲仙北
中2	世界の崩壊そして再生	勝平中学校	中川桃子	秋田
	天と地	合川中学校	木村璃生	大館北秋
	夜の街	羽城中学校	小林芽以	潟上南秋
	Japanese Style!	西目中学校	三浦佳恋	本荘由利
中3	図書館ホテル	御所野学院	鈴木水晶	秋田
	春の田園	常盤中学校	佐々木春斗	能代山本
	華	山内中学校	伊藤稚菜	横手平鹿
	少女の夏	男鹿東中学校	鈴木未来	男鹿



# 平面の部・立体の部 / 話題になった作品

## 幼稚園・保育園



わたしのすてきなぼうし  
聖園幼稚園・ベビー園 寺田朱里



カマキリの世界へようこそ！  
上宮第一幼稚園 吉川花梨

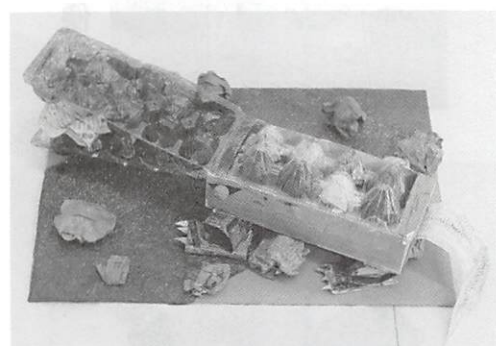
## 小学校作品



カマキリとなかよし  
崇徳小学校 あいざわたくま



月夜の音楽会  
花岡小学校 伊藤 ちゃら



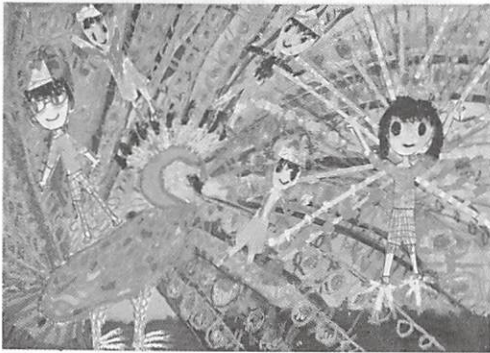
カラフルわにさん川をわたる  
新山小学校 ゆだある



キリンのくににいきたいな  
桜小学校 鈴木結葵



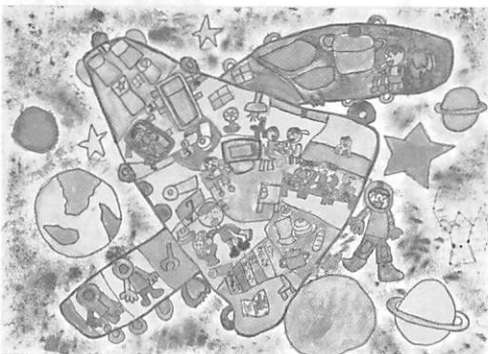
犬といっしょ  
小坂小学校 永田 琉星



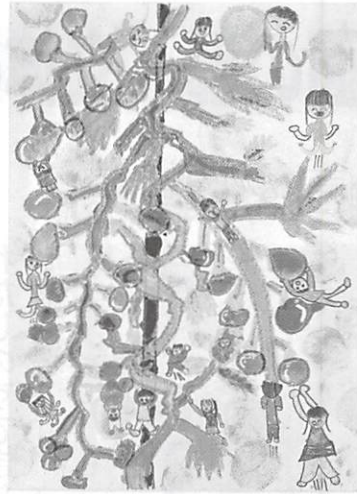
わたしもくじゃくになって  
船川南小学校 近藤 花保



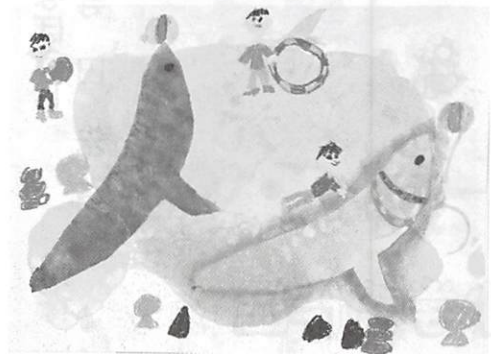
夜の戦い  
秋大附属小学校 泉 幸太郎



とびばこロケットがうちゅうへとんで行った!!  
有浦小学校 簾内 健之介



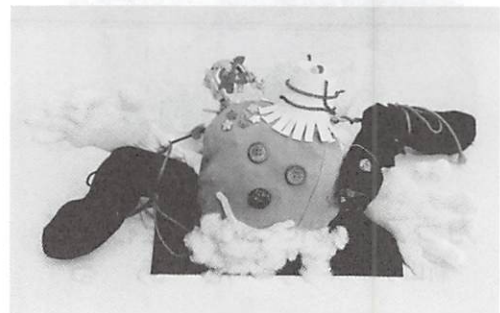
ミニトマトランドであそぼう  
下岩小学校 近藤 のあ



アシカとなかよし  
御所野小学校 くぼ田 あたう



本を読んでいる友だち  
湊城西小学校 鈴木 優雅



ゆかいなサンタさん  
東由利小学校 今野 将吾



秋のスイーツ祭り  
四ツ小屋小学校 泉 沙 希



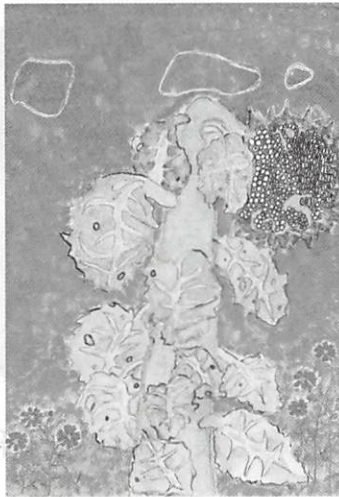
虫のパーティー  
水沢小学校 田村 胤



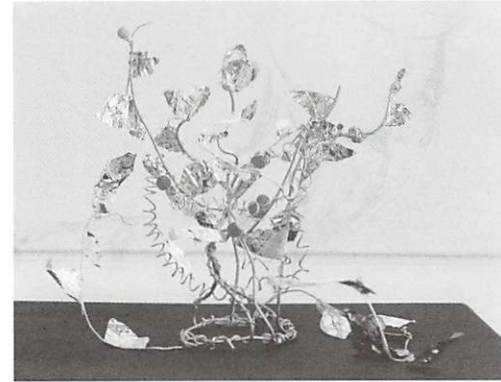
カニが水に入ってあわふいているよ  
前田小学校 岸 野 華 恋



雲にうかぶ未来時計  
角館小学校 松 本 萌 花



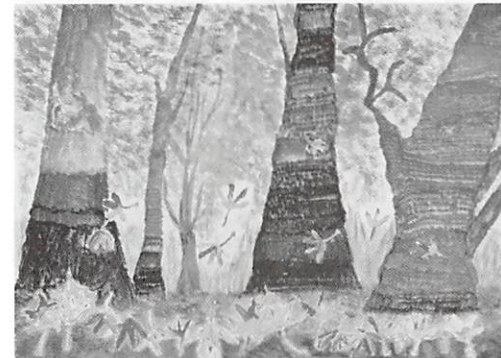
秋晴れの下でのヒマワリ  
駒形小学校 阿部 想 奈



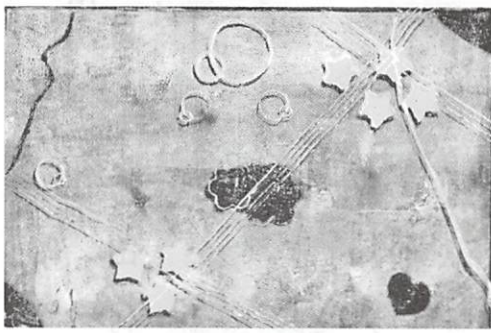
美しい木  
尾崎小学校 田中 絢 菜



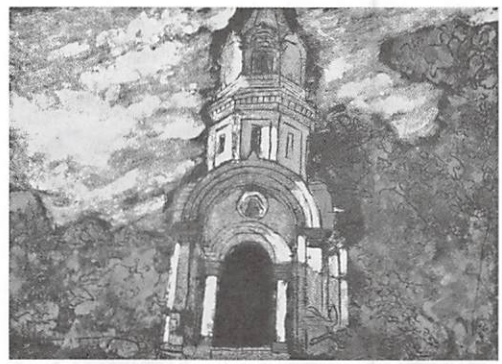
中滝の紅葉  
大湯小学校 阿部 真 子



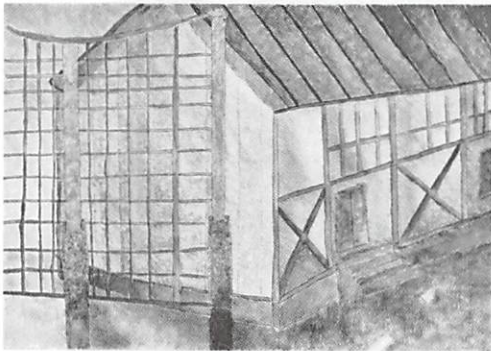
葉っぱになった自分～秋の風景～  
大阿仁小学校 田口 蓮



星のデニム  
湯沢東小学校 森田来愛



緑に囲まれたハリストス正教会  
西館小学校 阿部瑠綺菜

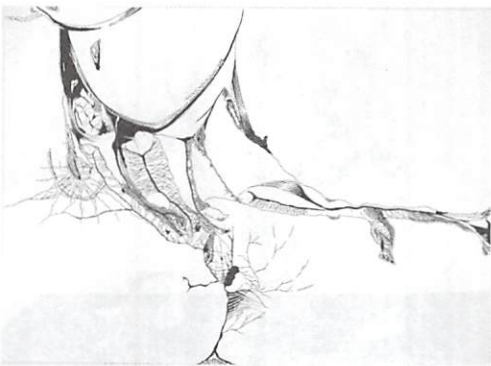


夏の思い出の校舎  
阿仁合小学校 松橋結人

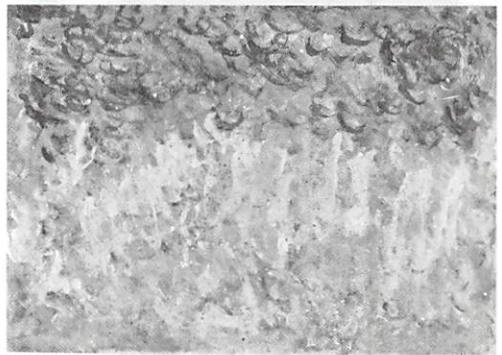


思い出のある玄関  
桜小学校 石川歩夢

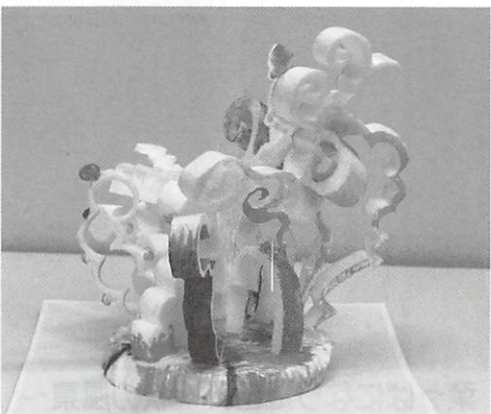
## 中学校作品



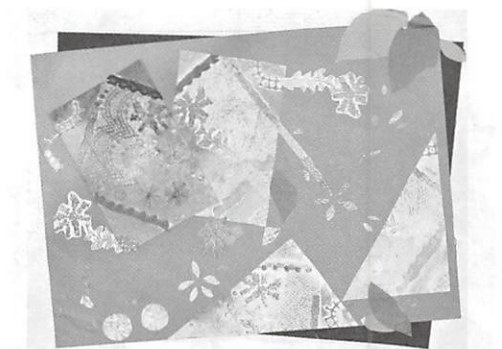
滝  
秋田東中学校 篠田真名



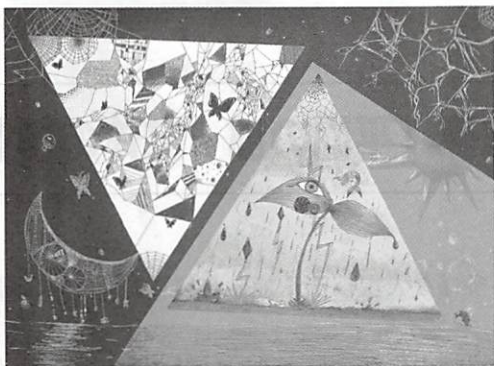
夜の暴走  
大館国際情報学院 渡部紗千



感謝  
羽城中学校 鈴木瑞歩



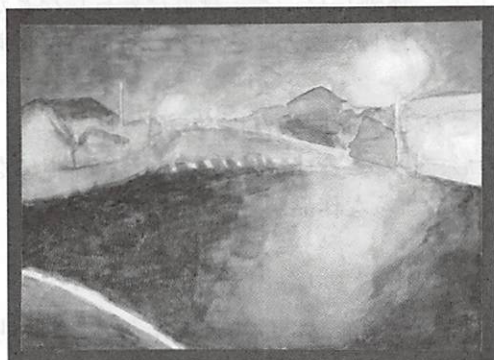
流れ~いのちのつながり~  
美郷中学校 佐々木美羽



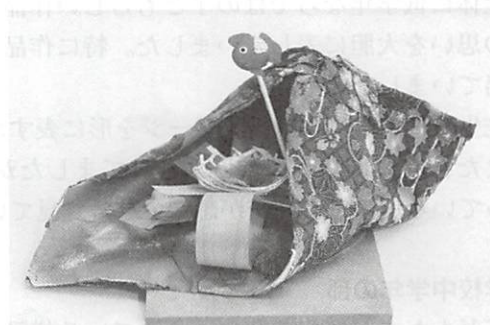
世界の崩壊そして再生  
勝平中学校 中川桃子



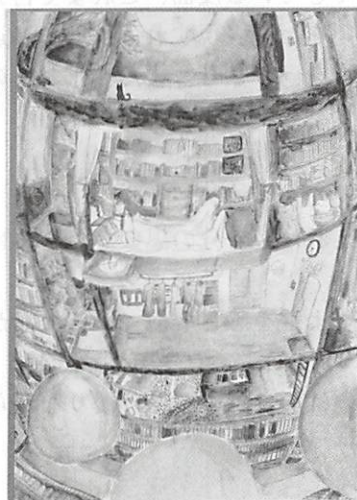
天と地  
合川中学校 木村璃生



夜の街  
羽城中学校 小林芽以



Japanese Style!  
西目中学校 三浦佳恋



図書館ホテル  
御所野学院 鈴木水晶



春の田園  
常盤中学校 佐々木春斗



華  
山内中学校 伊藤稚菜



少女の夏  
男鹿東中学校 鈴木未来

## 第56回 秋田県児童生徒美術展 総評「平面の部・立体の部」

### 幼稚園・保育園の部

子どもたちの元気な姿が見える作品が多く見られました。多様な表現技法や描画材料の体験や生活経験を大切にして表現につなげています。

絵本の一コマのように、お話が広がっていくような作品や日常の生活が見える「元気がいい子どもかな」「じっくり絵を描く子どもかな」など、子どもの歓声や姿が見える作品が多くありました。

### 小学校低学年の部

全体に低学年ならではの子どもらしい作品が多く見られました。体験したこと、身近な暮らしなどから自分の思いを大胆に表していました。特に作品に表れる人物のちょっとした動きにその子の楽しい気持ちがよく出ていました。

先生方の指導により、イメージを形に表すための技法が生かされている作品も目立ちました。

また、立体作品が数点展示されましたが、身近な材料の形、色などを上手に生かして、夢中になって作っているその子の様子が想像できる、見ているだけで楽しくなるような作品が多く見られました。

### 小学校中学年の部

子どもたちが楽しそうにつくっている様子が目に浮かんでくるような作品、最後まで作者のこだわりが感じられる工夫がちりばめられていて、見ていて楽しくなるような作品が多かった。

表現対象に直接触れたり、じっくり観察したりする活動をもっと取り入れるとよいと感じた。試行錯誤して、自分なりの主題や表したいことを見つけることを大切にするとよいのではないかと。

中学年の作品は、子どもっぽい作品から高学年へ成熟していく発達段階の過渡期にある。3年生は楽しい作品がたくさんあったが、4年生は、よく見て描こうとする気持ちが出てきている反面、これまで自分の思いを中心に描いていた作品とは変わってきていて、作品の中に自分の思いをどう表現すればよいのか迷っていると感じられる作品が見られた。指導者が題材のどのようなところに目を向けさせ、また、子どもの思いをどのように作品に反映させるのか、その手だての工夫をお願いしたい。

### 小学校高学年の部

自分の思いと表現技法がマッチした作品が多く見られました。言い換えれば、自分の思いをたくみに表現する技法を使っていたということです。

身の回りの風景を注意深く観察し、新たに見つめ直し、そこに美しさやよさを感じ取っている作品が多く見られました。

色の世界にどっぷりとはまっている作品がありました。色や線、あるいは形に思いっきり浸りながら、全体で特徴を捉え、よく表現している作品に出会いました。

### 中学校の部

授業時数が少ない中で、力作が非常に多く、生徒の美術に対する熱い思いや指導者の創意工夫が感じられました。

写実性が高い作品が多く見られましたが、写真を撮ることは一つの手段であり、これを手がかりに自分なりのイメージや思いを加えながら主題を表現することが大切です。

立体作品は募集が二年目になり、素材が多岐にわたっていて、生徒の思いを生かすテーマを指導者と一緒に練り上げていることが感じられました。

---

研究の記録

---

# 第46回秋田県造形教育セミナー

セミナーテーマ「鑑賞」って、楽しい。

第46回秋田県造形セミナーは、平成27年8月7日秋田公立美術大学 社会貢献センターアトリエももさだを会場に約80名の参加者のもと開催されました。前回テーマ「造形教育を通してつきたい力」から、より焦点化して、子供たちに身に付けさせたい力について問い直すために、「鑑賞」って楽しい、というテーマを設定しました。全コース鑑賞に関わる3つのコースを設定し、参加者全員の絵の見方に対する見聞を広めたり、実際の授業の展開についてのヒントになったりするような研修を行い、子供たちに還元できるようにすることをねらいました。また、講演は「風神雷神はなぜ笑っているのか～これからの学校教育と美術鑑賞の授業～」という演題で上野行一先生をお招きして行われました。

9:30	10:00	10:10	12:10	13:20	16:00
受付	開会 行事	講演	昼食	コース別研修①～③	閉会行事

講演は、対話による美術鑑賞の実践と研究についての内容で、学校での対話による美術鑑賞の実践を事例とともに紹介していただき、学習課題や評価などについても深く踏み込んだお話が拝聴できました。講演の途中でワークショップがあり、授業を受ける子供たちの気持ちになって鑑賞の楽しさや難しさを体験することもできました。

午後のコース別研修は3つのコースに分かれて実施しました。

## ①コース 日本の伝統文化と秋田の工芸

講師 秋田公立美術大学准教授 尾澤 勇氏

## ②コース 実践発表

山形市立山形第七中学校 池野 吉洋 教諭

大仙市立大曲小学校 三浦 典子 教諭

## ③コース 児童・生徒の鑑賞力を引き出すアートカードに挑戦しよう！

講師 美術出版サービスセンター

森 泉 彩 子 氏

真夏の秋田で、秋田の造形人の熱気あふれるセミナーになりました。ご指導いただいた先生方や運営にご協力いただいたスタッフの皆様には、この場を借りて改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。



## 講演

演題 「風神雷神はなぜ笑っているのかーこれからの学校教育と美術鑑賞の授業ー」

大阪府出身。大阪教育大学大学院修了。広告デザイナー、公立学校教諭、高知大学教育学部教授、帝京科学大学こども科学学部教授を昨年ご退任。美術による学び研究会代表。

講師 上野 行 一 氏



※講演は、今（2011年）の小学生の65%は、将来、今はまだ生まれていない仕事に就くことになるでしょう。（キャシーデビットソン氏）という言葉から始まり、上野行一氏の著書である「風神雷神はなぜ笑っているのか」の内容に基づいて、以下の7つの項目についてお話いただいた。

### 1. 人びとの“見る力”の現状

マルセルデュシャン、ダミヤンハースト、宮崎駿「風立ちぬ」 これらを例にして、見る力(Visual Imagination)を身につける教育をしてきたらどうか という問いかけがあった。

### 2. 美術館で鑑賞すること

見るということは、それ自体で既に創造的作業であり、努力を要するものである。（アンリ・マティス）

### 3. 対話による鑑賞の基本理解と現状

構成主義的な学習理論（図1）

個人的構成主義による学習理論：提唱者 ピアジェ（1896～1980）

社会的構成主義による学習理論：提唱者 ヴィゴツキー（1896～1934）

二つの学習理論は、知識を与えられるだけでなく、学習者が獲得する（構成する）ものである という部分で共通している。

学習としての鑑賞とは、自分の経験や気持ちを重ねながら自分なりの意味や価値をつくり出す鑑賞

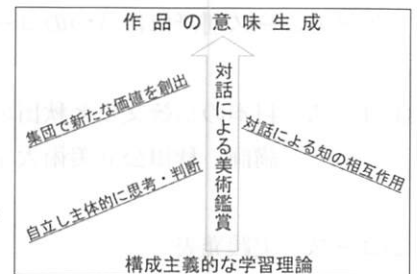


図1

対話による意味生成的な美術鑑賞とは、作品を見る、考える、話し合う。

対話による作品の理解は構成主義の学習

自分の視点から作品を見る…自分の見方がもてるように配慮する

自分の中にわき上がる感情や考えを大切に…対話に沿って見方を深める質問をする

違いから学び、見方を深め合う…意味生成を導くための対話

集団で探求し知識を創出・共有するプロセス

アクティブラーニングを用いた鑑賞学習

「TEACHING IN THE ART MUSEUM Interpretation as Experience」Rika Burnham and Elliott Kai-Keeの 著書

宗達「風神雷神」の鑑賞授業 授業者/山崎正明 学習者/北海道千歳市立北斗中学校1年生

授業が始まって30分ほどが経ったときに作品の主題に迫るような発言が出された「風神と雷神が競い合っているとしたら下の天候はすごく悪くなっていると思う」生徒の天候はすごく悪いという発言はまさに作品の主題に迫っているといつてよいだろう。この意見を受けて「風神・雷神」は、強い雨風などの自然

現象に対する畏怖の念から生まれた想像上の神様であること、この屏風はその主題をあらわしたものであることを説明して鑑賞をまとめる。発達段階や学習目標に沿って対話を進行しねらいに即してまとめる。「対話型の鑑賞はアメリア・アレナスによって日本にもたらされた。対話型鑑賞はアビゲイル・ハウゼンのVTCがもとになっている。対話型鑑賞は知識を教えるはいけない。」これは違います。このような誤解はどうして生まれたのか。

#### 4. 誤解はどうして生まれたのか

museum education の訳語としての博物館教育という言葉の普及 1950年代  
棚橋源太郎「博物館教育」を著した1953(昭和28)年この頃から活性化すれば良かったのにそうはならなかった。

経済中心の時代から文化重視の時代へ 大平正芳首相による施政方針演説(1979年1月)より 各地で美術館や博物館が造られ始める→1980年代 ハコモノ行政と揶揄される、市民や学校に対して有効に使われていない

1992年 美術館教育普及国際シンポジウムが横浜で開催され、ケント・ライデッカーが教育施設として美術館の社会的な使命を力説した。

1993年 伊藤寿郎が著書「市民の中の博物館」で「学習者の主体性を尊重することで博物館の教育は本来の役割を達成できる」と述べた。全国美術館会議が教育普及WGを発足させた。

1995年 アメリア・アレナスとフィリップ・ヤノワインが来日し、VTCを日本に伝えた。

1996年 中央教育審議会が「美術館等の社会教育施設は子どもたちのそれぞれの興味や関心に応じた主体的な学習の場であることを要求する」旨の答申を提出した。わずか5年の間で、VTCは絶妙のタイミングで紹介された。

美術館教育からの視点と学校教育からの視点は違う。学校教育からの視点から見ると、対話による鑑賞は今に始まったことではない。

昭和22(1947)年版学習指導要領図画工作編(試案) 第4章 図画工作の学習法 鑑賞学習の指導の中で、  
3. 鑑賞の結果の感想を述べる 4. その感想について討論する とある。

まだ中学校の美術はなくで1年生から10年生という段階。第3学年では絵画や彫刻などの実物、または写真や複製品を見て、その美しさを話し合う。第6学年ではどこまでも自分の眼でみて、自分の心で判断する。

〈鑑賞という行為の捉え方〉

観衆が自由に作品を鑑賞するという考え方はいつから、どのようにして生まれてきたのだろう。

#### 5. 元になる考え方は1930年代から

美術が文学だった。

文学における読者論/テキスト論/受容美学、20世紀初頭 ニュー・クリティシズム

読書をするということは作者の意図・主題を理解するということではなくて読者が自分の経験や環境に照らし合わせて自分なりに味わうこと。

ニュークリティシズムは鑑賞という行為を作者の意図を読み解く行為から解放した。

鑑賞はそれ自体芸術活動であって、学的作業ではない。岡崎義恵「日本文芸学」岩波書店、1935,P28

鑑賞とは鑑賞者の創造的な活動であり、鑑賞者は「彼自身の経験を想像しなければならない」と鑑賞活動が意味生成的な創造活動であることを示している。Jhon Dewey “Art as Experience”, 1934 ジョン・デューイ：訳/鈴木康司「経験としての芸術」春秋社、1952,P59

「鑑賞とは・・・知識を詰め込むものではなく・・・対象との関係で自分の中に新しい価値をつくりだす創造活動」文部科学省 学習指導要領解説 美術編 2008

これまででてきたものは現在の学習指導要領ととても良く似ている。このあたりは昔からぶれていない。知識とどう違うのかも1936年頃に書かれていた。

授業の実証記録は1970年代に遡及できる。

レオナルド「モナリザ」の鑑賞授業 1973.11.1 授業者/野島光洋 学習者/浜松市立南陽中学校3年生  
2012年 宗達「風神雷神」の鑑賞授業との類似点は、①開かれた質問 ②根拠を問う ③受容的態度である。このように、40年前から同じような授業が行われていた。

中央教育審議会への諮問（理由）

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されます。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、子供たちが就くことになる職業の在り方についても、現在とは様変わりすることになるだろうと指摘されています。2014.11.20文部科学省

我が国の将来を担う子供たちには、こうした変化を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身に付けることが求められます。2014.11.20文部科学省

キーワード 自立・協働・創造 アクティブラーニングを使って2015.8.5時点で求められる資質・能力  
主体的な判断力・議論を通じた協調性・新たな価値の創造

キーワード 育成すべき資質・能力 ポイントは21世紀型能力  
これらを構成主義的な学習理論当てはめると（図2）

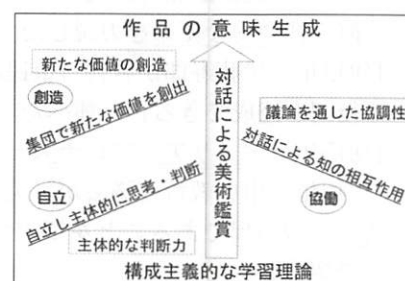


図2

何ができるようになるか何を学ぶかどのように学ぶかが構造的になっている

これからの学習指導のポイント

目標：新しい時代に必要な資質・能力の育成

育成すべき資質・能力を明確にする

内容：教科の本質だけでなく、教科を横断する汎用的な資質・能力を育成に関わる内容

主体的に取り組む意欲、多様性を尊重する態度、他者と協働する力、コミュニケーション能力、創造性

方法：自立：協働：創造という視点による学習指導

アクティブラーニングによる

こういう構造で美術の授業・鑑賞の授業を考える。その際アメリカに実践されている答えがある。

## 6. アメリカの美術館教育から学ぶ

グッゲンハイム美術館より

発達段階によって鑑賞の指導が変わってくる。観衆のニーズや観衆の特性によって鑑賞のプログラムが変わってくる。

ワークショップ小学校2～3年生向けのプログラム

縦長の紙を一人に1枚配る。問いに答えて書く。第1問見たもの。答えの部分を折って隠し、順に回す。第2問聞こえたもの、答えの部分を折って隠し、順に回す。第3問匂うもの、第4問感じる（体感）、味わう。最後にこの絵の解説文を書きましょう。そこにある4つのことばを必ず使うこと。

グッゲンハイムの問題解決能力

Experimentation 具体的な経験 対話、制作

Brainstorming グループでアイデアを出し合う

Breaking down a problem into parts 問題を細分化する

Redefining a problem 問題を見直す

Decision making 判断を下す

美術鑑賞を通して、生徒にどんな力をつけるのか。各学校ごとに生徒・地域の実態に即して具体化する。

キーワード 育成する資質・能力

## 7. MoMAから学ぶこと

MoMAの学習過程

1. Observation 第1段階 よく見ること
2. Description 第2段階 言葉にすること
3. Interpretation 第3段階 他者の意見を聞き、意見交換の中で解釈を進めていくこと
4. Connection 第4段階 美術の世界だけでなく、見ている私たちの日常につなげていくこと

キーワード インタープリテーション

Observation→自立し主体的に思考・判断 Description→対話による知の相互作用 Interpretation→集団で 新たな価値を創出

美術館のジェシカさんの言葉

私たちが重きを置いているのは、作品の相互作用です。バルザックの鑑賞がウォーホルの鑑賞に、それがまたニューマンの鑑賞に影響を及ぼし相乗効果をもたらす。私たちが作品をどう見るか。ニューマンの赤に何を見るかは自分に返ってくるのです。この作品は情報を与えない。見る人が情報を作品に導入する。見る人の性格が入るのです。

キーワード コネクション

4. Connection 第4段階 美術の世界だけでなく、見ている私たちの日常につなげていくこと MoMAが大切にしている。

私たちはいったいどのようにして周りの人の性格を理解しているのでしょうか。

自分を振り返らせてくれるのがアート→構造化している。

唯一の現実というものは存在せず、一人ひとりが解釈を通じて自分自身の現実をつくっている。

私たちが願っているのは、アートについて、アーティストについて学ぶ以前に、人びとが作品を私たちの周りの世界とどのように関連付けて扱うかということです。

Inquiry Based Appreciation (探求的な鑑賞)

○鑑賞者の変容を目指す～ただ鑑賞を楽しむだけでなく、より積極的に鑑賞者の変容を目指す

○テーマを提案する～鑑賞活動のテーマを参加者に提案し、年齢、所属などバラバラな鑑賞者同士の気持ちを整え、鑑賞を始めます。

○複数の作品を用いる～同じ作家、違う作家など、3～4作品の作品を組み合わせます。

○複数のアクティビティを入れる～簡単なアクティビティをいくつか組み合わせます。

○大事な情報は発見や発言の後で。鑑賞活動やテーマにとって欠かせない「情報」はアクティビティや発言の後、タイミングよく挟み込みます。

学習テーマに沿って鑑賞する。複数の作品+複数のアクティビティ。複合的な鑑賞を今、模索している。

育成する資質能力を明確にした自立・協働・創造型授業

対話による鑑賞の授業設計の手順とポイント

学習課題の設定 →育成すべき資質・能力を明確にする

主体的な判断力・議論を通じた協調性・新たな価値の創造

(基礎能力) 作品を主体的に判断し、対話を通して価値を創出する能力

1. 造形的なよさや美しさなどを主体的に感じ取り考え判断する能力
2. 目的や機能との調和のとれた美しさを主体的に感じ取り考え判断する能力
3. 作者の心情や意図と表現の工夫を考える能力
4. 生活を美しく豊かにする美術の働きを考え理解する能力・態度
5. 美術文化を愛好し、継承・創造する態度

(木内 衛)

## ①コース

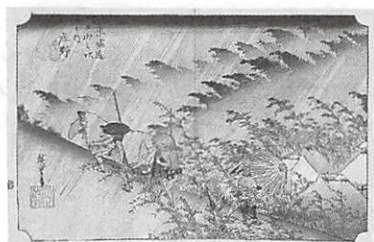
# 日本の伝統文化と秋田の工芸

講師 尾澤 勇先生  
(秋田公立美術大学准教授)

浮世絵（リプロダクト）や秋田の工芸品を直接触れて、鑑賞を行った。またそれらを、授業でどのように扱ったらよいのか学んだ。

取り扱った浮世絵（リプロダクト）12枚を、実際に触ったり虫眼鏡で見ながら、自分のお気に入りを選び出した。小グループで選んだ理由を伝えながら、作品の見方を共有した。

実際に見ることや触ってみて気づくこともあり、本物を見ることの大切さを改めて感じることができた。背景の着色にキラキラと光る雲母を使っていたり、紙を引っ込ませることで雪の立体感を出させたりと、新たな発見があった。



工芸品の鑑賞では、本物の漆器と100円均一の器の違いを判断する活動を行った。始めに形やつやを見て考え、次は実際に触って判断することとなった。触ることで肌触りや厚みを感じ、触ることの大切さをさらに実感した。



秋田の工芸品として、十文字和紙・またぎ山刀・出羽和紙・織物もを見せていただいた。また、現代に活かされている例としてあげられた太陽光パネルの三浦折り、缶デザインの吉村パターンなどにはとても驚かされた。

本物を見ることの大切さを実感した研修だったが、浮世絵もまだ制作している所があり、その地域に根ざした工芸品もまだまだ健在である。絵画の鑑賞に偏らず、幅広い分野の鑑賞を行いたいと感じた。「秋田の文化、日本の伝統文化を大切にすることは、真の国際人を育てることにつながる」と熱く語られた尾澤先生の言葉が心に強く残った。

(工藤 明美)

## ②コース

### 実践発表

山形市立山形第七中学校

講師 池野 吉洋 教諭

大仙市立大曲小学校

講師 三浦 典子 教諭

山形県・秋田県の中学校・小学校における実践を紹介していただき、参加者がそれぞれが授業改善を考える機会となりました。

#### 1、昨年度の東北大会で発表された三浦典子先生の鑑賞題材の実践

鑑賞の活動で子どもたちに育てたい力は①作品と関わる力(鑑賞活動に関心を持ち、作品を主体的に受け止め楽しむ力)②言葉で深める力(鑑賞した作品や自分の作品のよさを言葉で表現し、深める力)③表現に生かす力(鑑賞作品のよさを見付け自分の造形活動に生かす力)だとして、それぞれの力をつけるための題材、手立て、事前の教材研究から生まれた手立てなどについての実践発表だった。自らがゴッホやゴッホの作品について研究を進め、子供に鑑賞させたいこれぞという作品を20点精選するところから、授業の構想を練っていった経緯を聞かせていただいた。鑑賞の授業をするためには、まず、教師自身が、美術作品を鑑賞することを楽しみ、鑑賞眼を高め、時代背景や画家や絵にまつわるエピソードなどに精通していなければいけないと感じさせる発表であった。また、実践発表からは絵を見て感じたことを制作に結びつけるプロセスもあり、子供を一段高いレベルに、引き上げる方法が大いに参考になった。

#### 2、山形第七中学校池野吉洋先生の道徳的な美術の授業の実践

池野先生の実践発表は、美術による道徳授業ととれる題材の内容でした。教師になる前は映像技術者になりたかったというコメントにもなるほどとうなずける、動画を駆使した興味深い内容の実践であった。担任の先生に感謝の気持ちを映像で伝えようという発想で、グループで動画を作成したり、映画仕立てで自分の気持ちや意見を訴える映像の制作など、型破りの実践がたいへんおもしろかった。子どもたちにも制作前に世界中の動画を見せ、制作意欲をかき立てるなどの工夫があり、教師の事前の準備の大変さや、熱意が伝わってきた。美術科では、よく自分の思いを大切にして' というフレーズが聞かれるが、誰に向けて、何を伝えたいか、やコンセプトの明確化が子供の意欲や学びの質を高めることがよくわかり、作り手も鑑賞者も出来上がった物に共に感動することができることが伝わってきた。また、他者への思いやりや優しさ、制作を通しての協力する姿勢、積極性など、美術を通して、道徳的な心情も育まれる養われる高いところを目指した実践発表だった。

### ③コース

## 児童・生徒の鑑賞力を引き出すアートカードに挑戦しよう！

講師 森 泉 彩 子 氏  
(美術出版サービスセンター)

BSSのエウレカとアートスコープ（アートカード）を使い、4～5人のグループになって、ワークショップを行った。以下に紹介する5つの活動では、コミュニケーションを通して、楽しみながら鑑賞力を高めることができた。

#### (1) 3つのヒント

進行役の3つの言葉（形、色、イメージなど）をヒントにカードを探した。言葉を手がかりにカードをよく見ることができ、みんなで一緒に探すことで、学び合いの場にもなっていた。



#### (2) しちならべ

自分の持っているカードの中から、選んだカードとの共通点を見つけ、そのカードの共通点を発表しながらカードならべていくゲーム。作品に何が描かれているのかよく見て気づききっかけになり、2枚のカードの共通点を探し出して、自分の言葉で発表することができた。

#### (3) 連続ドラマ：10コマ

順番に裏返しにしたカードを引き、そのカードの中に物語を見付け、話しながらシートにおいていく。前のカードと関連づけながら物語をつなげていくことで、共同で楽しい考えが生まれていた。



#### (4) なりきり芸術家（アーティスト）

パレットを持ち、メガネをつけて、選んだカードの「作者」になったつもりで作品の解説をした。



その他は、インタビューになって作者に質問をした。作品やメンバーとのコミュニケーションを促進することができた。



#### (5) ミツパチ会議

いろいろな考えを出し合いながら1つの作品を読み深めるゲーム。多くの意見を取り入れながら考える力を育てることができる活動であった。



# 第60回東北造形教育研究大会福島大会

大会主題「わくわく！できた！から始まる連続する表現のよろこびの創造」

～造形美術表現を通じた自己肯定感の醸成～

湯沢雄勝造形教育研究会会長 芦原清巳

## 1 東北造形教育連盟理事会より

10月6日（火）、福島県郡山市のホテルハマツで東北造形教育連携理事会が開催された。木村実行委員長から今大会のテーマ「わくわく！できた！から始まる 連続する表現のよろこびの想像」について趣旨説明があった。子供たちが、よろこびを感じながら思いをふくらませ、表現し続けるために「何を大切にするか？」を問い、参加者も問いをもち、答えを探しながら、授業を参観し、協議する大会を想定したとのことであった。

各県からの情報交換では、東北6県全体を通して、特にどの県でも教職員の高齢化と図工・美術教員の減少が危惧されていた。また、今後の教職員の急激な若返りに対しても一抹の不安があり、ミドルリーダーの育成等、憂慮すべき事項が確認された。

平成28年11月10～11日に仙台市で第69回全国造形教育研究大会宮城大会（兼東北大会）が開催され、公開授業は小学校10コマ、中学校6コマを予定しているとのことであった。来年から、教職員組織が宮城県と仙台市に完全に分離されるので、大会運営上、その影響も心配していた。会場は南材木町小学校、宮教大附属中学校、せんだいメディアテークの3つがメイン会場となり、その他にも幼稚園、特別支援学校、高校、大学が別会場で開催する運びとなっていた。全国大会にふさわしい大がかりなものであった。

## 2 小学校の授業を参観して

10月7日、さわやかな秋晴れの中、郡山駅から20分ぐらいの所にある大島小学校を会場に3つの公開授業、4つの実践発表が行われた。東北大会で3つの授業は、ちょっと寂しい感じがした。2年立体「ひみつの〇〇〇〇」では、〇〇〇〇という名前から連想する生き物を土粘土でつくる授業であった。子供たちは自分のイメージを広げ、ボリュームある土粘土に無心に挑戦していた。没頭する姿は、どの子供たちも一緒であった。最後にひな壇を使った作品鑑賞会は圧巻であった。



【2年 ひみつの〇〇〇〇】



【3年 わくわく島へようこそ】

3年工作「わくわく島へようこそ！」では、教室中央に硬質スチロールで作った島を置き、周りに海や川、山を配置し、この島にあったらいいと思う乗り物や建物、生き物をつくる授業であった。子どもたちが、思い思いに空き箱や身近な材料を使い、いろいろな物を楽しそうに作っては直し、作っては飾り、どんどんスケールを広げていく姿は造形遊びにも通ずる熱気にあふれていた。

6年立体「こうぞをかためて」では、地域の海老根和紙を漉いて、和紙に色をつけたり、模様をつけたり、切ったり、貼ったりして写真

立てやランプシェードなどを作る授業であった。和紙を漉く段階で、平面だけではなく、ザルやボウル等も使用したので、半球体の形も多かった。子供たちは、紙を切ったり、葉っぱをつけたりしながら、工夫を凝らし、発想や構想を広げていた。自分で作った和紙を大切に加工しながら、地道に仕上げていく姿は工芸に通じるものがあった。

3つの公開授業とも、立体・工作と偏りはあったものの子供たちが材料と出会い、仲間とかかわり、「やってみよう」という気持ちがあふれ、製作に無心に没頭する姿は「わくわく！できた！から始まる連続する表現のよろこび」が随所に見られた大会であった。



【6年 こうぞをかためて】



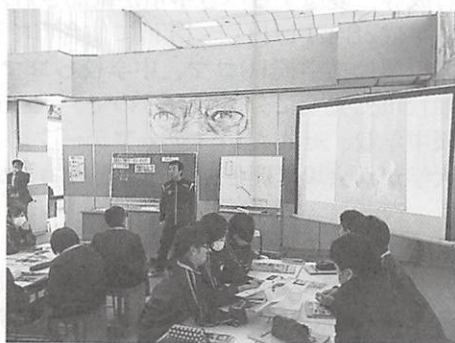
## 第60回東北造形教育研究大会福島大会に参加して 大会主題「わくわく！できた！から始まる連続する表現のよろこびの創造」 ～造形美術表現を通した自己肯定感の醸成～

大曲仙北造形教育研究会事務局 田中 真二郎

### 3 中学校の授業を参観して

中学校2年生「ポスターをつくろう」の公開授業と3年生「わたしの“エッシャー・Eye” ～自画像制作に向けたステップ～」という実践発表を参観させていただいた。ポスターの授業では、中学生が制作した参考作品を鑑賞した後、デザイナーが制作したポスターを鑑賞し、どんなことを伝えたいのかをグループで話し合う活動が行われた。教師側のねらいは、多様な視点でものごとをとらえさせ、発想・構想につなげることであった。その後の活動は発想の演習で、「空き缶のポイ捨て」をテーマに、数種類の構図で描かれた空き缶をどのような言葉や絵でポイ捨てについて考えさせるポスターにするかを描き込んでいく形で行われた。生徒自らが表したいことを見付けることは指導事項としてあるため、このような演習という形で発想を繰り返す方法は今後の見通しをもつことにもつながるため参考になった。

実践発表では、題材の構成が非常に練られており、子どもが身に付けた力を活用しながら段階的に資質や能力が高まっていく過程を紹介していただいた。エッシャーの作品を参考に自分の将来を描かせたり、作家の人生に焦点を当て自画像を描くことと生き方について考えさせたりと、緻密な授業設計であった。中学校3年生の進路実現に向けた時期の制作への没入体験を大切に考え、自己の内面を見つめさせる手立てが非常に参考になった。



【中2年 ポスターをつくろう】

### 4 記念講演会より

二日目の最後は、岡田調査官と東良調査官お二人による講演であった。「全ての子どもたちは豊かな存在である」ということを前提に、大人の価値を押しつけるような指導ではなく、何を教えるか、どのように学ばせるか、どんな力が身に付いたかという視点で授業改善を行う大切さを豊富な資料を基に示して下さいました。何度も



【中3年 自画像の実践 生徒作品】

強く言われていたのが、「主題」を生み出すことの重要性だった。子どもが表したいことを心の中に思い描くことができるように、私たち教師は指導の手立てを考えなければならないということであった。

「子どもは常に学ぶ存在」であることを常に意識し、「やるべきこと」と子どもが「やりたいこと」、そしてそれが「やれること」の視点で学ばせ方や学ぶ環境などを見直していく必要があるとお話くださった。今回の大会は非常に学びの多いものであった。自校の実践に生かし、子どもたちの学びのプロセスを考えながら授業改善をしていきたいと思う。

# 平成27年度 秋田県造形教育研究会役員

会 長	二ツ井小学校 校長 佐々木 彰 子		
副会長	尾去沢中学校 校長 木 村 伸	勝平中学校 教頭 加賀谷 政 広	朝倉小学校 校長 奥 秀 輝
顧 問	三関小学校 校長 芦 原 清 巳	秋田北中学校 教頭 佐 藤 一 彦	
監 事	港北小学校 教諭 工 藤 圭 文	城南中学校 教諭 土 門 正 佳	

地 区	会 長	事務局	研究部
鹿 角	尾去沢中学校 校長 木 村 伸	尾去沢小学校 教諭 田 中 繁 子	花輪第一中学校 教諭 関 清 志
大 館 北 秋	山瀬小学校 校長 永 井 孝 久	第一中学校 教諭 佐々木 亜希子	鷹巣中学校 教諭 工 藤 明 美
能 代 山 本	二ツ井小学校 校長 佐々木 彰 子	東雲中学校 教諭 渡 部 悦 子	能代南中学校 教諭 田 森 舞
男 鹿	船越小学校 校長 鎌 田 悟	船川南小学校 教諭 上 田 環	男鹿東中学校 教諭 中 川 努
潟 上 南 秋	東湖小学校 校長 加 藤 順 子	天王南中学校 教諭 都 留 賀津人	天王南中学校 教諭 都 留 賀津人
秋田市	勝平中学校 教頭 加賀谷 政 広	土崎中学校 教諭 鎌 田 政 美	城東中学校 教諭 松 田 清 悦
本 荘 由 利	象潟中学校 教諭 石 井 真理子	本荘北中学校 教諭 木 内 衛	象潟小学校 教諭 関 口 琢 也
		本荘東中学校 教諭 山 下 奈 知	
大 曲 仙 北	太田中学校 校長 高 橋 克 明	西仙北中学校 教諭 田 中 真二郎	大曲中学校 教諭 渡 邊 真理子
横 手	朝倉小学校 校長 奥 秀 輝	横手北中学校 教諭 高 橋 輝 樹	十文字中学校 教諭 美 濃 俊 幸
湯 沢 雄 勝	三関小学校 校長 芦 原 清 巳	駒形小学校 教諭 三 浦 秀 巳	湯沢北中学校 教諭 佐 藤 かよ子

幹事長	四ツ小屋小学校 教諭 小 野 哲	
研究部長	土崎中学校 教諭 鎌 田 政 美	
副幹事長	豊岩小学校 教諭 渡 部 英 明	秋田北中学校 教諭 三 浦 直 樹
幹 事	御所野小学校 教諭 松 田 由紀子	御野場中学校 教諭 齋 藤 未 樹

# 秋田県造形教育研究会 事務局

## 秋田県造形教育研究会事務局

〒010-1417 秋田県秋田市四ツ小屋街道東256-1

TEL 018-839-2050

FAX 018-839-2964

秋田市立四ツ小屋小学校

幹事長 小野 哲

